



学校図書館部会報

No. 77

発行日：2024 年 12 月 1 日

発行者：日本図書館協会 学校図書館部会 （部会長：甫仮久美子）

連絡先：(E-Mail) gakutobukai@jla.or.jp



I N D E X

○学校図書館職員に関する実態調査（個人向け）結果報告	
理事・部会幹事・非正規職員に関する委員会委員 高橋恵美子	2
○第27回ひらこう！学校図書館 学習会に参加して	
岡山市立平津小学校 学校司書 武田江美子	9
○さいたま市立美園南中学校を見学しました。	
埼玉県立越ヶ谷高校 学校司書 石黒順子	10
○《短信》文科省「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」について	幹事会 11
○日本図書館協会学校図書館部会役員(第40期)候補者公募のお知らせ(公示)	幹事会 12
○《短信》「本と読者の未来を考える書店・図書館等による連携推進協議会」発足	幹事会 13
○《短信》部会・委員会の在り方検討準備WG(仮称)の設置について	幹事会 14
○《短信》「公務非正規女性全国ネットワーク(はむねっと)2024年調査	幹事会 14
○部会からのお知らせ	幹事会 14
○学校図書館部会作成資料のご案内	15
○ブックレット『学校図書館とマンガ』増刷されました！	16

学校図書館職員に関する実態調査（個人向け）の結果報告

理事・部会幹事・非正規職員に関する委員会委員 高橋恵美子

部会報前号（76号/2024年7月）でもお知らせしたとおり、日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会は、2023年度7月に自治体教育委員会（政令指定都市・東京23区・政令指定都市以外の県庁所在地の市）対象の「学校図書館職員雇用状況調査」（調査は2023年5月1日現在）を行い、また、同年11月下旬から2024年1月に個人向けの「学校図書館職員に関する実態調査」（Web調査）を実施した。

前号では、自治体調査の結果と、個人向け調査結果のうち自由記述を除く部分の結果概要を報告したが、今号では、残る個人向け調査自由記述部分の結果を報告する。

現時点では、この個人向け調査についてはまだ正式報告が出ていない。正式報告公表は、10月の予定だったが、11月下旬になりそうである。非正規雇用職員に関する委員会で作業中だが、正式報告はクロス集計表を多用し、40ページ近い分量になる予定である。正式報告と今号に掲載（p.2～8）する最後の設問の自由記述意見のまとめの二つになる。こうした事情により、自由記述意見のまとめについては、日付が空欄となっている。また最終報告ということで、記述例を53に増やしている。

以下が、その自由記述意見のまとめである。

学校図書館職員に関する実態調査（個人向け）、最後の設問に寄せられた声

日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会

2024.〇.〇

学校図書館職員に関する実態調査（個人向け）の最後の設問「学校図書館で働く中で、思うことがあればお書きください。」には、640人の回答があった。この回答の整理にあたり、勤務形態により回答内容が異なることを考慮し、勤務形態別の回答数を調べた。

1 勤務形態別の回答数

正規職員 計77

小学校11 義務教育学校1 中学校8 特別支援学校1 中等教育学校6
高校50（うち私立学校11、私立学校11の中に専任司書教諭2、授業と兼務1、事務兼務1、が含まれる）

会計年度任用職員（フルタイム&パートタイム） 計468

小学校・1校専任 187 義務教育学校&小中併設校・1校専任 4
中学校・1校専任 92 特別支援学校・1校専任 4 中等教育学校・1校専任 1
高校・1校専任 40
小学校・2校兼務 40（うち1は村立図書館と兼務） 義務教育学校・2校兼務 2
中学校・2校兼務 16 高校・2校兼務 1
小学校・3校兼務 18 義務教育学校・3校兼務 1 中学校・3校兼務 3
高校・3校兼務 1
小学校・4校兼務 20（うち4は中学校を含む4校兼務） 義務教育学校・4校兼務 1
中学校・4校兼務 1
小学校・5校兼務 12（うち5は中学校を含む5校兼務）
小学校・7～9校兼務 5

1校に複数名の配置19（義務教育学校1 中等教育学校1 高校17）

臨時的任用職員、再任用・再雇用職員 計13

小学校・1校専任 1 中等教育学校・1校専任 1 高校・1校専任 11

嘱託職員、任期付職員、非正規雇用職員 計42

小学校・1校専任 7 義務教育学校・1校専任 2 中学校・1校専任 1
 中等教育学校・1校専任 2 高校・1校専任 25 小学校・3校兼務 2
 小学校・4校兼務 1 1校に複数名の配置2（中等教育学校1 高校1）

外部委託・派遣・指定管理 計30

小学校・1校専任 10 中学校・1校専任 1 中学校・公共図書館と兼務 1
 中等教育学校・1校専任 1 高校・1校専任 3 小学校・2校兼務 4
 義務教育学校・2校兼務 1 高校・2校兼務 1 小学校・3校兼務 1
 中学校・3校兼務 1 小学校・4校兼務 2
 1校に複数名の配置4（小学校3 高校1）

有償ボランティア 計10

小学校・1校専任 6 中学校・1校専任 1 小学校・2校兼務 2
 1校に複数名の配置1（小学校1）

2 自由記述意見の扱いについて

- ・意見をカテゴリーに分けることを試みたが、以下の記述例1のように、1つの意見に、複数のカテゴリーを含む意見がある。本報告では、カテゴリーの①から⑩までを示す。カテゴリーの後の数値は、1つの意見を1つのカテゴリーにした関係で、実数ではなく実際にはもっと大きな数字になる。

記述例1 （公立・小学校・1校専任・P会計年度）

とにかく給料が低い。生活ができない。学校内において司書の業務への理解がない。（教員は司書がどういうものか知らない）。公共図書館児童担当と小学校司書の両方を経験したが、公共図書館に比べ、小学校図書室は利用冊数と利用頻度が比べ物にならない程多い。常に児童に寄り添っているのは学校図書室である。それであるにも関わらず、公共図書館に比べ図書購入予算は少なく、古く汚い図書をいつまでも使い続ける必要がある。児童が新しい情報に触れる情報センターとしての役割を果たせずにいる。能力のある司書がいても、図書室を作る予算もなく、勤務時間も給料もパートアルバイトの扱いである。

→ カテゴリー③にしたが、②の内容もある。

- ・長文の意見（3）があった。この場合も、便宜上、1つのカテゴリーに分けた。

カテゴリー① 待遇改善、安定した雇用、正規雇用の実現など 73

記述例2 （公立・小・1校専任・P会計年度）

私は自治体公務員出身だが、教育委員会の経験がなかったので、学校はまるで異世界のようなだった。自治体初の学校司書だったが、マニュアルもなく、教育委員会からも学校からも放置状態。最初の1年は言葉を交わす教員も少なく、職員室は針のむしろ的状态で、とても辛い思いをした。6年目になり、新教育長に日頃の訴えが通り、ようやく学校図書館、学校司書のマニュアルが作成されようとしている。勤務条件や学校での待遇は、他の方の悲惨なつづやきを見る度に恵まれている方かとは思いますが、専門職の会計年度職員は、雇用期間を3年以上にして欲しい。来年度は居ないかもと思いながら、毎年来年度の準備をするのは虚しすぎる。

記述例3 （公立・特別支援・1校専任・P会計年度）

まだまだ改善が必要。完全にオーバーワーク。非正規で時間も短い、教員と同じ時間いて当たり前とされている。そして管理職も仕方ないと思っている。それでいて立場は低く、雇用環境も安定しない。雇い止めに怯えながら新年度を待つことになる。どうにか雇用だけは安定させてほしい。会計年度になっただけいいことがなにもない。ボーナスは出るが、月給は減っている。意味がない。

記述例4 （公立・中学校・1校専任・F会計年度）

会計任用職員に頼りきりになるのではなく、正規職員として採用し、安定した立場で働きたいです。

記述例5 （公立・小学校・4校兼務うち2校は中学校・P会計年度）

複数校勤務では、本当に時間が足りない。毎日勤務なら一週間かからない事も週1では一ヶ月以上かかる。週1だから働けるという人もいるとは思いますが、1校専任週5フルタイム（朝の読み聞かせから6限終了まで）で仕事ができれば、と思う。

カテゴリー② 学校図書館と学校司書の仕事が理解されていない（管理職、教員、自治体ほか） 64

記述例6 （公立・小学校・1校専任・P会計年度）

1人職場のことが多いので、ひとりよがりになりがちの上監査もないので、学校格差が生まれてしまう。また管理職の考え一つで有効活用されたり無視されたりするのも学校格差となっている。図書館の存在

もだが、学校司書個人に対しても同じ。多くの学校で学校図書館と司書は軽視されている。(授業に遅れることが当たり前で来ない時も連絡なし、担任不在で子どもだけ送り込む、逆に確認なしで急に来館するなど、他の専科では決してしないことが罷り通る)

記述例 7 (公立・中学校・1校専任・P会計年度)

行政(人事)が、図書館司書の仕事の重要性を理解していないため、司書の雇用面など軽視されている。学校現場の正職員を減らして、全員会計年度職員にする流れがある。図書館教育は、学校全体の共通理解で、全職員で行うべきものであるのに、教員の関心の有無に任されている所が問題。図書館教育の意識が高い司書教諭(図書館主任)の配置と、図書館業務を行うための時間確保が必要。(以下省略)

記述例 8 (公立・高校・1校専任・P会計年度)

図書館担当の先生から、司書なんかTSUTAYAの書店員だと皆思っていると言われたことがある。司書のレベル事態が全体的に上がっていかないといつまでも認めて貰えない。

記述例 9 (公立・中学校・司書不在校で司書業務の一部を担当・P会計年度)

読書の推進や本で調べることの大切さを生徒に伝えるには、教員への教育が不可欠であると感じます。どんなに生徒が本に興味を持っても、担任から「受験生だからほどほどにしろ」という指導をされたり、調べ学習の際に図書館を使おうという選択肢すらない教員がほとんどなので、専任学校司書設置を上げるとともに、教員への周知や研修も充実させなければ、本来の学校図書館の機能を果たすことはできません。

記述例 10 (公立・小学校・2校兼務・P会計年度)

自治体の学校図書館・学校司書に対する認識が低すぎる。図書ボランティアがいればいいと思っているようだ。週に一日勤務で一体何ができるのか。悲しくなります。

カテゴリ③ 待遇が悪い 49

記述例 11 (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

学校司書はとても弱い立場である。今年はたまたま一校専任で働きやすい学校だが、去年までは2校兼任で机もない日があった。モラハラやパワハラまがいのこともあったが、誰にも言えなかった。市内の小学校で一校専任は4校のみ。次に異動するときは恐らく2校兼任になる。今から憂鬱だ。そのタイミングで転職するかもしれない。

記述例 12 (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

交通費を実費支給してくれないことにずっとややもやしている。くらしてゆけないぐらいの低賃金も本当につらい。学校司書は専門職だと自負しているが、意に反して対応は限りなく軽々しく、捨て駒扱いでかなしい。毎日、辞めたい、辞めたい、と思いながら登校している。パワハラもある。底辺のかなしさは体験しているひとにしかわからないと思う。20年近く働いているがよくなったことはひとつもない。非正規雇用や、会計年度任用職員なんて制度をつくった輩を一生恨んでも恨みきれない。

カテゴリ④ 楽しい、続けたい、頑張っていきたい 39

記述例 13 (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

子供たちとの触れ合いは、やる気に繋がり、何者にもかえがたい幸せと感じる。給与水準が伴えば長く続けたい仕事だと思う。

記述例 14 (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

子どもたちがうれしそうな顔で借りた本を持ち帰る姿を見ると、こちらもうれしくなります。本を読んで知る世界、読んで調べて得る知識、読むことの楽しさを伝えていけたらと思っています。

記述例 15 (公立・小学校・2校兼務・P会計年度)

子ども達の読書や学びをサポートすることが主な仕事ではあるが、担任以外だからこそ知り得たり、気づいたりすることもある。そういったことを先生方と共有し、よりよい指導につなげられたり、成長を見られることは嬉しい。

カテゴリ⑤ 疎外感、孤独感、お客様感、相談相手がいない、ほか 35

記述例 16 (公立・中学校・1校専任・F会計年度)

とにかく孤独。先生との連携というが、努力するのは司書ばかり。教員以外は基本信用されていない学校文化の中ではとても辛い立場である。仕事量や責任の大きさを考えると割に合わない。

記述例 17 (公立・中学校・1校専任・P会計年度)

非正規の雇用だと、学校ではお客さん扱いが多く、情報も入りにくいし、意見が言えない。ギガスクールが始まってしばらくになるが、タブレットもアカウントももらえないようでは、図書館は趣味の本を

読む場所になってしまう。図書館の本を使ってもらうために色々努力しているが、朝読書もなくなり、できることが限られると思ってしまう。

記述例 18 (抜粋) (公立・中学校・1校専任・正規職員)

自治体から派遣されているので学校では部外者扱い。環境を自治体の上司(課長)等に相談しても部外者扱い。いてもいなくても良い存在と自治体から思われている。また、異動が少なく1校に10年以上在籍している司書(会計年度職員)が多く、図書室に対する思い入れが強くなるからなのか、会計年度職員より少数の正規職員が主体となって自治体内の学校司書同士のコミュニティを構築しようと試みるものの、あまり協力を得られない。

カテゴリ⑥ 限界を感じる、やる気を失ったなど 18

記述例 19 (公立・小学校・4校兼務・P会計年度)

疲れ果てました。仕事内容は良いと思いますが、これだけやってきてもひどい待遇のところばかりで、失望、絶望感でいっぱいです。自治体格差、学校間格差もはなはだしい。夢も希望もすっかり失いました。良い仕事なのに非常に残念です。仕事としての待遇もですが、図書予算10万とか、児童の読書・学習環境もひどいので、ますますモチベーション低下も。

記述例 20 (公立・小学校・3校兼務・P会計年度)

初めの数年は向上心を持って働いていたが、学校司書の限界、必要性の低さを感じることも多く、そのうちワークライフバランスをとるために、手を抜きがちになっている。この程度でも大丈夫という、加減を覚えてきてしまっている。頑張っても、おごなりにやっている学校司書と給料が同じというのも、原因にあるかもしれない。

カテゴリ⑦ 同業の司書に対して 13

記述例 21 (公立・中学校・1校専任・P会計年度)

すごく好きな仕事を続けられていることに感謝しているが、たまたま自分の条件が続けられる状態(既婚、配偶者の収入がある)だから。自立した生活を送れる雇用条件ではない状態。日本全体でこのような状態ということは国も社会全体も「その程度の仕事だ」と認識しているように感じて辛い。一方で、「腰掛け程度で働きたい」と思っている同業者が多いのも事実。

記述例 22 (公立・高校・1校専任・P会計年度)

非正規待遇、パートタイム会計年度任用職員の立場で、専門職として扱われることはないため、学校組織内で司書としての提言が個人的な意見とみなされてしまう。雇用条件内で無理せず働きたい人からやりたいことがハイレベルになる人に対してやりすぎだと軋轢が生まれてしまう。

カテゴリ⑧ 学校司書を教職員の一員に 12

記述例 23 (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

学校司書も、経験を積み重ねることで、より良い仕事ができるようになります。人として、大切に扱ってほしいと思います。

記述例 24 (公立・小学校・4校兼務・P会計年度)

もっと学校職員の一員として、認識してもらいたいです。複数校やっていると、どの学校でもお客さんのようになってしまい、うまく授業に関わっていくことができません。

カテゴリ⑨ 学校、自治体による格差 11

記述例 25 (公立・小学校・4校兼務うち2校は中学校・P会計年度)

同じ自治体なのに学校間の格差がひどい。巡回でたまにしか来ないこともあるが、あからさまに学校司書を無視する司書教諭がいたり、活動費用がないのに図書館ボランティアを始めて消耗品の自腹を切らなければならない学校もあれば、読書週間の1校時分を任せてくれて、人手や資材を提供してくださる学校もある。複数校公平にやって行きたくても限界があり、子供達に不利益が行ってしまうことが辛い。

カテゴリ⑩ 学校行事や学校の仕事が負担 11

記述例 26 (公立・中学校・1校専任・P会計年度)

学校現場は慢性的な人員不足で、図書館司書の仕事に加えて、教員のサポートスタッフと化している部分も多い。今後は司書限定の職務だけでなく学校職員としての業務が増えていく懸念がある。

記述例 27 (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

教科書事務と教師用指導書に関する全般を学校司書がたった一人で担うことが大変な負担であり、特に年度始めには図書館より教科書を優先せざるを得ない状況です。図書館の業務に全力で専念できたら良いのにとっています。

カテゴリ⑪ 教師との連携、コミュニケーションの難しさ 10

記述例 28 (公立・小学校・2校兼務・P 会計年度)

先生との連携が必要だが、どの先生も忙しすぎて、打合せする時間がない。

カテゴリ⑫ 子どもたちに 7

記述例 29 (公立・小学校・1校専任・F? 会計年度)

子どもたちがゆっくり本と向き合い、読む時間が減っている。借りに来る子どもたちはいつも時間や課題に追われ、図書室にいられる時間が限られている。ゆっくり図書室で過ごす環境が整うと嬉しい。

記述例 30 (公立・小学校・1校専任・P 会計年度)

小学校にて勤務しています。幼児期からの公共図書館利用がかなり少ないまま小学校へ進級する児童が大変多いと感じます。学校のカリキュラムに公共図書館にて調べ学習を取り入れるなど、公共図書館がもっと身近になってほしいと感じます。公共図書館にてマナーも学べ、情報資源活用の力も身に付けられると思います。

カテゴリ⑬ 時間がない 5

記述例 31 (公立・中学校・1校専任・P 会計年度)

校内情報を共有してほしい。掃除の指導や給食配膳に勤務時間を使い時間が不足している。

カテゴリ⑭ 差別される、先生より下に見られる 5

(うち3つの事例は、高校の正規職員、行政職の1人職種から。)

記述例 32 (公立・高校・1校専任・正規職員)

教員中心の職場のため、一人職種の行政職員は「被差別職種」になっている。そんな中、学校の多忙化が進み、ICT化によるデジタルストレスが急速に強まり、管理職等のパワハラもあって、心身の健康を損なってしまった。正規職員で療養休暇や休職制度が使えるため、25年以上どうにかやってこられたが、定年(65歳)まで続けられる自信はない。教員の働き方改革が話題になっているが、教員以外の少数職種へも光が当たると良いのに、と思う。

記述例 33 (抜粋) (公立・高校・1校専任・P 会計年度)

学校図書館や学校図書館職員への認識があまり高くなく教職員が多く、専門性を活かす機会が少ないことや、会計年度任用職員のため、差別されることがあるのは辛く感じる。

カテゴリ⑮ 学校司書の研修 5

記述例 34 (公立・小学校・1校専任・P 会計年度)

同じ自治体の学校司書同士、常に連絡や相談、情報交換などしながら、同じレベルのサービスを提供できるようにしたい。

カテゴリ⑯ 朝の読書がなくなった 3 (カテゴリ⑤にもう1例の記述あり、すべて中学校)

記述例 35 (公立・中学校・1校専任・P 会計年度)

研修会などで、学校の教育活動の中に位置づけるように教わるが、学校も教育委員会も関心がない。特にGIGAスクールが始まってからは、調べ学習はタブレットが中心で、しかも、司書にはタブレットが配布されていないので、蚊帳の外だと思う。

朝読書も先生方の働き方改革という名目でなくなってしまい、それ以降、貸出数も生徒の読解力もどんどん落ちているような気がする。

カテゴリ⑰ 委託との比較 3

記述例 36 (抜粋) (公立・高校・1校専任・P 会計年度)

昨年度までは委託会社から派遣されており、今年度より同じ学校で会計年度任用職員として採用されました。委託契約にもいろいろと弊害はありますが、問題がなければ同じ学校に長く勤める事が可能なこと・その反面流動的に働ける臨機応変さもある事・担当部署が明確で困った時に相談できた事、は利点だったと思います。

記述例 37 (抜粋) (公立・高校・1校に複数名の配置・P 会計年度)

業務委託で務めていた頃に比べて直接雇用の会計年度任用に代わり、学校の中での置かれ方、仕事のしやすさはだいぶ良くなりましたが、非正規という立場は教育活動に十分に寄与する上で、待遇や立場などにおいて足かせがあると感じています。

カテゴリ⑱ 教科書の配布 3 (回答はすべて中学校)

記述例 38 (抜粋) (公立・中学校・2校兼務・P 会計年度)

教科書購入について 全教科購入して貰える学校もあれば、国語の教科書すら購入して貰えない学校も

あります。学校規模や校内事情で購入できないことがあるのは理解できましたが、教科書改定時には予算が付くので、『学校図書館に教科書を置かなければいけない』と定めて欲しいと思います。学校司書に、学校に対して教科書購入の交渉をさせないでほしいです。

カテゴリー分けできなかった回答から

記述例 39 (私立・中等教育学校・1校専任・正規職員)

(私学の専任司書教諭の記述は他にもう1つある。)

36協定を結んでいないのに、教職調整をはらっているから残業してくれと、校長に言われる。また、司書教諭を学年の教員の「穴埋め」のように使う。行事の引率や休んだ教員の代行、試験監督や試験運営に駆り出される。図書館の仕事をきちんと理解してくれる管理職がいないと、教科の先生と同じように扱われてしまう。何度も上に働きかけても、改善されない。学校として、図書館をないがしろにしている感が否めない。

記述例 40 (長文 要約・抜粋) (公立・小学校・5校兼務・P会計年度)

(この〇〇市は、自治体調査に無回答の4自治体の1つ。)

〇〇市では、5校勤務の形態になっている司書もいます。

勤務時間外の勤務は、前日までに学校長の許可をもらった場合のみ、認められることになっています。飛び込みのことに対応して勤務時間外に仕事をしなければならない場合がほとんどなので、陰での「勤務時間外の勤務」をたくさんしています。

〇〇市では「スクールサポートスタッフ」という名称の事務支援員が配置されています。学校によっては、司書の配置がなかった頃から「図書事務」と呼んで司書の代わりの業務などをしてきたようです。司書が配置された現在でもそのスタッフは健在で、勤務日数は司書の勤務する日数よりも多いです。そのため、どちらが主か分からない状態になることがあります。我流で図書館業務をされたり、発言力が強かったり、悩ましい存在です。

記述例 41 (抜粋) (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

図書館にパソコンがないこと、プリンターもないこと、など不便も多い。やればやるだけ残業になるのでほどほどにすることにしている

記述例 42 (抜粋) (公立・小学校・2校兼務・P会計年度)

(エアコンがないという記述は、ほかのカテゴリー⑬に1つ、エアコンが冷房のみという記述も1ある。)

1校図書室にはエアコンが入っていません。真夏35度を超える中作業するのはもちろん大変ですが、私は大人なのですぐにいろいろな対応ができます。子供が熱中症で倒れないかとても心配で、夏は図書室に来てとはなかなか言いづらいです。

記述例 43 (抜粋) (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

私が働く学校図書館だけなのか、退勤後の図書室の利用により部屋や書架の荒れ、システムを勝手に立ち上げておかしいことになっているPCなど、常にしりぬぐいをしている仕事である。

委員会活動で来る生徒も真面目な子ばかりではなく来ない子も多いのであてにできないし、図書システムをいい加減に使用するので貸し出しトラブルも多発している。とにかく貸し出した本が返ってこない。禁帯もいつの間にか持ち出されていたりして図書システムを通さず不明本が多発する。悲しくなる。けれど、毎日図書室での読書を楽しみに来てくれる子たちもいるので、その子たちのお陰で頑張っている。

記述例 44 (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

〇〇市の学校図書館指導員は、自営業状態で、統一されたルールがないまま仕事をしています。赤木かんに影響され、図書室シールだらけの学校もあり、異動してがくぜんとする場合があります。

記述例 45 (公立・小学校・2校兼務・有償ボランティア)

〇〇市の学校図書館サポーター(有償ボランティア)として活動しています(←働くという立場にもありません)。〇〇市は学校図書館司書職員を置かず、司書資格を持つ有償ボランティアを各校に配置しています。学校図書館司書職員配置希望の署名活動が功を奏し、2020年3月に議会で採択されたにもかかわらず、市は未だに職員としての配置を拒んでいます。

雇用契約ではないので、活動時間も年間560時間に限られていて、やる事がたくさんあるのに手が回らず、サービス残業をせざるを得ません。市側はボランティアなので、そこまですなくていいと考えているようですが、実際子ども達と接する現場は、私達サポーターがやらなければ先生も子ども達も困る状

態です。

〇〇市の他の大学生有償ボランティアなどは1000円～1500円の謝礼金なのに、司書資格保有者の私達サポーターが900円なもの、納得がいかないところでもあります。まずはボランティアではなく、職員として働きたいです。

記述例 46 (抜粋) (公立・特別支援学校・1校専任・P会計年度)

まず特別支援学校は、そもそも図書館が設置されていないところが多い。この人権問題を知らない人が多すぎる。もちろん通常校も整備するためのお金が不足している。アンケートなどで、すべて揃っているかのように答えるが、古い資料を捨てないなどは当たり前にある。専門性高く仕事をしているが、認めてもらえないし、必要とされない 等等

記述例 47 (公立・小学校・1校専任・F会計年度)

図書の仕事以外に、図書室登校児童のケアもある。不登校児が増加するなか、居場所としての需要が増加すると思う。学校司書には、不登校児や、発達障害を持つ児童に関しての知識が必要になってくると思う。前任者は、知識のないまま対応をしつづけた結果、心を病んで退職となった。

記述例 48 (抜粋) (公立・小学校・2校兼務・P会計年度)

児童より「図書館司書はやりがい搾取なんだってね」という発言があった。聞けば、読んでいた小説の一節に、「司書の仕事はほとんどが非正規で不安定、正規職員と同じくらい激務なのに、給料は150～200万と激安」という話を主人公が聞き、それでもその職を選ぶのはそこに生きがいを見出しているからだ、とする文があったという。それを読んで冒頭の感想を持つに至ったようだ。何とも哀しい話である。

記述例 49 (抜粋) (公立・小学校・4校兼務・P会計年度)

昨年度まで隣接する市の小学校で4年間学校司書をしていました。3年目から会計年度任用職員制度に伴い学校司書兼スクールサポートスタッフの立場となりましたが、職務の両立に悩み、今年度から現在の勤務をしています。4校兼任は想像以上に大変でした。

記述例 50 (公立・小中学校・3校兼務・P会計年度)

学校の中での認識が低く、授業活用などの依頼が少ない。こちらからアプローチをしていったところ最近少しずつブックトークやワークショップなどの依頼が来るようになった。しかし管理職や教員が図書館司書の活用の仕方がわからないようで、図書整理のボランティア程度に思っている人もまだいる。こちらから提案も出来るが、時間が限られているので、やればやるほど自分の持ち帰り仕事が増えてしまう。SSS(スクールサポートスタッフ)と時給が同じで、専門性が認められていない。また、学校の雑務(行事の手伝い)なども求められている。

記述例 51 (抜粋) (公立・小学校・1校専任・P会計年度)

公共図書館で正規司書の経験もありますが、学校司書の方が仕事が大変だと思います。なのに、何年キャリアを積んでも最低賃金レベルで悲しくなってきました。やりがい搾取です。

記述例 52 (私立・高校・2校兼務・派遣)

公共図書館の「グループで運営」と全く違い、「一人で運営」、しかも、仕事が多岐に渡り量も多いことに驚きました！ 予算執行(今年はインボイスが!)や、図書館通信つくるの私! 図書委員会とか、大学図書館との連携とかもあって大忙し! 合間に選書して装備して除籍して! ぜんぶぜんぶ私の仕事! 毎日悲鳴出しながら仕事してます。でも、生徒が「あ、あった!」と本を手に取りカウンターに持ってくると、この仕事の喜びと誇りを感じて幸せになります。

最後に

記述例 53 (公立・小学校・1校専任・F?会計年度)(カテゴリーは④になる)

学校図書館は幅広い年齢の子どもたちとたくさん関わります。中には私生活で問題を抱える子も少なくありません。そんな子どもたちに、担任とは違う立場で寄り添えること、広い視野で見守れること、居場所の提供ができること、自分の世界を守るような将来に希望を持てるような資料・本を提供できることなどが学校図書館の存在意義のひとつだと思っています。

学習の場所としてはもちろん、それだけではなく読書が楽しい場所、イベントが楽しい場所、心が落ち着く場所として図書館を運営できるよう子どもたちに関わっていかれたらと思っています。

第27回集会ひらこう！学校図書館 学習会に参加して

岡山市立平津小学校 学校司書 武田江美子

2024年7月13日に開催された「第27回集会ひらこう！学校図書館」(学校図書館を考える全国連絡会:主催)にオンラインで参加した。この会では、毎回市民の視点から今、学校図書館として考えるべき内容を問題提起や講演で取り上げられるため、いつも自分の仕事を客観的に振り返る機会となっている。会の様子を報告したい。

午前中の前半は、高橋恵美子氏(前 JLA 学校図書館部会部会長)から、「学校図書館が抱える課題とは—JLA 学校図書館職員調査(自治体向け、個人向け)の結果から—」と題しての問題提起があった。この調査は、JLA 非正規雇用職員に関する委員会が、政令指定都市 20 都市、東京 23 区、政令指定都市以外の県庁所在地の自治体 31 市の計 74 自治体を調査し、70 自治体から寄せられた回答をまとめたものだ。報告結果は JLA のホームページに公表されているので、詳細はさけるが、学校司書配置校数が 5450 校・配置率は 78.7%であった。文部科学省が行った「令和 5 年度公立学校における学校司書の配置状況に関する調査」(2024 年 6 月 20 日公表)では 67.3%だったので、今回の JLA の調査では学校司書配置が 8 割近くになっていることに驚いた。個人的にはもっと少ないという感覚だった。ただ、配置のされ方は、全国各地さまざまである。一校 1 名の専任も数字では 76.0%であるが、パートタイムの会計年度任用職員が 49 自治体ともっとも多く、勤務時間が短い。学校司書配置有無だけ見ると進んでいると捉えた方が良いのかもしれないが、教育活動を支えるためには十分でない実態が明らかになったと思う。格差が大きいという高橋さんの言葉にも同感だ。また、調査内の自由記述部分を紹介し、学校司書が置かれている状況のしんどさを強調された。「子どもたちがうれしそうな顔で借りた本を持ち帰る姿を見ると、こちらもうれしくなります」といったやりがいや楽しさを書いている人もいるが、待遇の劣悪さや学校図書館への理解不足など、つらい状況を書いている内容が多い。どれも切実なものばかりだ。高橋さんは学校司書同士の横のつながりを作っていくべきだと話された。配置された学校司書が安心して働き続けるためには、労働組合の加入や公的な自主研修等も必要になってくる。学校司書配置を要望だけでなく、配置後の労働環境の改善も要望していくことが大切であることを改めて認識させられた。実態調査は大変ではあるが、その分現場の状況が良くわかる。貴重な問題提起であったと思う。

午後は佐藤学氏(東京大学名誉教授)「生成 AI 時代の学びと読書—学校図書館の役割を見直す—」と題した記念講演であった。佐藤氏はいつも世界の教育の現状や人類が歩んできた歴史から、日本の教育や図書館の状況を俯瞰して捉えて話される。「AI とロボット、あらゆるモノを繋ぐインターネットとビッグデータ」に代表される第四次産業革命が教育に与えている影響を指摘された。GIGA スクール構想には、経済産業省が関わっていることも指摘し、道具であるタブレットに振り回されることで、学力低下を招くこともデータから指摘された。図書館が民主主義を作ってきた歴史があり、本来は、学校図書館は学校教育の中心で機能することが必要であるが、学図法公布後 70 年を経ても学校図書館が十分機能していないと指摘された。今後の期待として、生成 AI 時代は読書文化の復権を要請しているとし読書を支えることが重要であること、教師の教材研究を支援するカリキュラム開発センターとしての役割、地域の図書館とのネットワークの重要性などを指摘された。

講演後『第四次産業革命と教育の未来』(佐藤学著 岩波ブックレット No. 1045)も改めて読み直した。現場では、タブレットの活用を勧める動きが強い。学校図書館でも Google Classroom を活用しながら、読書量や購入希望のアンケートを取ったり、授業での調べ学習に図書と Web 資料を両方活用した調べ学習も行われたりするようになってきた。図書館から何ができるかを探っていきたい。また、新しい教育の流れも把握しつつ、現場で学びを支える学校図書館としての役割をもっと追及していきたいと思う。

会の中で、長年にわたり世話人をされてきた広瀬恒子さんの訃報が伝えられた。岡山には何度も足を運んでくださり、講演して下さった。子どもの本について・読書環境の充実についてなど優しくそして力強く話されるお話にいつも引き込まれていた。紹介される児童書はいつも広瀬さんならではの選書眼があり、とても参考になった。改めて学校図書館の充実運動を支えてくださったことに感謝申し上げたい。寂しい気持ちであるが、広瀬さんの著作を読み直しながら子どもと本に向き合っていけたらと思う。充実した学習会となった。

さいたま市立美園南中学校を見学しました。

埼玉県立越ヶ谷高校 学校司書 石黒順子

2024年8月22日午後、さいたま市立美園南中学校を深谷商業高校の方が見学すると聞いて、私も一緒にさせていただくことになった。

さいたま市は非常勤だが、全小中学校に司書が配置されていて、美園南中はベテランの新井妙子さんが勤務している。美園南中は私の自宅の近くで、少子化のこの時代の6年前に新設された中学校なので、どんな学校だか建設中から一度見てみたいと思っていたのだ。さらに言えば、サッカーワールドカップが行われた「さいたまスタジアム2002」の近くでもある。

当日は現地で待ち合わせ、新井さんに隅々まで案内してもらった。まず校門から見ると、メインの校舎はガラスと打ち放しコンクリートで、とてもきれいである。1階の職員玄関から入ると正面が事務室で、その隣に職員室がある。職員室と廊下の間の壁もガラス張りだが、成績まで見えてしまうので、現在は模様のついた壁紙が貼ってあり、隙間から中の様子がわかる。クラス数は7組×3学年と特別支援学級5クラスで26クラスあるという。教室は、イスや机はよく見かけるものだが、床が木製で新しいせいかなともきれいに見えた。

図書館は2階にあった。L字型で、通路に沿って書架があり、中央にカウンターがあったが、全体を見渡せないような気がする。司書室はなくて、代わりに書架で囲われた司書コーナーがあった。レイアウトは、もう少し書架を集めて、机のコーナーと別にすればいいのにと考えたが、書架は固定されて動かせないのだそうだ。設計者は公共図書館を参考にしたらいい。となりには、コンピューター室と広めの書庫があった。

それから貸出冊数を聞いて驚いた。生徒一人当たり年間35冊余、全体で約1万5千冊だとか。本が少ないと思ったが、それは夏休み中で多くの本が貸し出されているからなのだ。だから、本が少ない夏休み中に蔵書点検をするという。私たちがいる間も、いろいろな先生が入りして、蔵書点検の担当分をチェックしたり、明かり取りの中庭を掃除したりしてくれていた。

新井さんは先生方ととても親しげで、学校によくなじんでいる様子だった。先生方は若くてフレンドリーな人が多いという。給食を職員室で食べていて、情報交換もよくしていることがうかがえた。「先生方とコミュニケーションを密にとることで、授業を一緒に組み立てて、使ってもらえることができます」とのこと。授業にも司書が入っているそうだ。



他にもビブリオバトルの全校大会を行っており、予選会は全員参加で、全クラスの本選びを図書館で行っているという。また、近くの浦和東高校図書委員会とのコラボ企画も進行中だそうだ。蔵書や施設設備が整っているだけでなく、図書館活動も積極的に行われていることがわかる。

この学校は6年前に開校したが、開校前についた図書予算がなんと1500万円!! すべて本を購入するお金で、発注するだけでも大変だったという。装備付きの本の納品と配架は、さいたま市教育委員会の職員とTRCと地

元の須原屋書店の社員が、かなりの人数でやってくれたらしい。

他に、ガラス窓がせつかく大きいのに近所のクレームで目隠ししてしまった階段や、自動で点灯して水洗してくれるトイレ、エアコンとギャラリー席がある体育館などを見せてもらった。避難所になってもいいように、校舎と体育館の間は屋根が付いていた。

新井さんはさいたま市の別な中学校に勤めていたが、6年前から美園南中に来ている。勤務時間は週4日、9時45分～16時30分だが、帰れたためしがないそうだ。経験があるから1500万円の予算も消化できる。また、よく本を借りる子は偏差値の高い高校に進学するそうだ。

わが子の通った川口市立の中学校と何という違いか。日本全国の中学校図書館に司書がいて、こんなふうになればいいのと思い、美園南中を後にした。

◎この原稿は、学校図書館問題研究会埼玉支部報「しらこぼと通信10月号」に掲載されたものに加筆し、許可を得て転載しました。

《部会から》

現在、学校図書館部会が策定した「学校図書館施設設備基準」のブックレット刊行の準備をすすめています。その製作のために、編集委員がいくつかの学校図書館を見学しました（上記の記事とは別です）。図書館雑誌12月号から、見学記を4回にわたって掲載予定です。そちらもどうぞご覧下さい。ブックレットは来年春頃の刊行を目指しています。

《短信》

幹事会

文科省「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」について

『図書館雑誌』10月号掲載の常任理事会議事録（p.627—631）で、文科省が「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」を立ち上げることを知った方は多いと思う。この記事では、10月の終わり頃に第1回会議を行うとのことだったが、10月24日常任理事会で延期となったことが報告された。開催日程は現時点では未定である。

この有識者会議では、公立図書館の「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」、学校図書館の「学校図書館ガイドライン」「学校図書館図書標準」の改訂が検討されるとのことである。8月22日常任理事会では、有識者会議委員に、協会より業務執行理事である曾木常務理事兼総務部長を推薦し、回答したとの報告があった。以下に8月22日常任理事会で示された資料をあげる。

〈8月22日常任理事会資料〉

「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」について

1. 検討事項 以下の基準・ガイドライン等の改訂を検討
 - ・図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年度告示）
 - ・学校図書館ガイドライン（平成28年通知）
 - ・学校図書館図書標準（平成5年通知）
2. 検討の方向性
 - （1）学校、家庭、地域の連携による社会全体を通じた読書環境の充実
 - （2）近年の社会変化等、以下に掲げる事項を踏まえて図書館及び学校図書館の運営やサービス等に求められる新しい視点や内容
 - ・地域の社会的包摂（読書バリアフリーの推進等）や地域振興・活性化への寄与
 - ・デジタル社会等の社会の変化に対応した読書環境の充実
 - ・学習指導要領（社会に開かれた教育課程、主体的・対話的で深い学び、カリキュラム・マネジメント）、教師の働き方改革等の教育課題への対応、こども主体の取組の推進
 - （3）図書館・学校図書館の運営上の諸課題への対応
 - ・図書館長・学校長のマネジメント能力強化
 - ・司書・学校司書の処遇改善
3. 委員構成案（20名程度）

2024 年 12 月 1 日

日本図書館協会学校図書館部会役員(第 40 期)候補者公募のお知らせ (公示)

部会長 甫仮久美子

日本図書館協会学校図書館部会第 39 期部会役員の任期満了にともない、学校図書館部会規程第 8 条および学校図書館部会役員選出要綱にもとづき、下記のとおり次期役員の候補者を公募いたします。

記

1. 役職と定数、任期

役職と定数：(1) 部会長 1 名 (2) 副部会長 1 名

(3) 幹事 20 名以内 (4) 監査 1 名

任期：2 年間 (2025 年度定期総会後～2027 年度定期総会)

2. 候補者応募資格

日本図書館協会の会員で、かつ学校図書館部会に所属されている方(施設会員に所属される方を含みます)

3. 応募方法(応募条件・記載事項・応募連絡先・応募期間)

以下の記載事項を明記して、下記送付先に応募期間内(必着)に送付して下さい。

自薦・他薦(推薦)を問いませんが、他薦の場合は、候補者本人の了解を得て応募して下さい。他薦の場合の推薦者も、日本図書館協会の会員で学校図書館部会に所属されている方(施設会員に所属される方を含みます)に限ります。

1) 記載事項

(1) 応募する役職 (2) 候補者氏名 (3) 勤務先・所属等の名称(勤務先や所属先等が特にない方は「特になし」とお書き下さい) (4) 郵便番号・郵送の宛先※ (5) 電話番号※ (※(4)と(5)は、自宅・携帯・勤務先等いずれでも構いません。勤務先の場合、連絡可能な時間や内線番号あるいは呼び出しの部署なども適宜記して下さい) (6) 電子メールアドレス(お使いでない方は「なし」とお書き下さい) (7) 他薦の場合は、推薦者についての(1)～(6)の情報および候補者本人の了解を得ている旨の記述

2) 送付先(応募連絡先)

(郵送の場合) 〒177-0044 東京都練馬区上石神井 2-2-43 東京都立井草高等学校図書館 中村崇 宛

(電子メールの場合) gakutobukai@jla.or.jp 宛

3) 応募期間(締切)

2025 年 1 月 20 日(月)(必着)

4. 応募いただいた個人情報および役員選出に関する情報の扱いについて

応募の際にご提供いただいた個人情報は、役員選出手続のために使用します。また、役員により、部会運営のための諸事務に使用される場合があります。これら個人情報のうち、(1) 応募する役職 (2) 候補者氏名 (3) 勤務先・所属等の名称 については、一般に公表されます。

応募・辞退の状況等役員選出に関する公の情報は随時すべて公開しますが、個別に受けたお問い合わせの内容、候補者が重複した場合に役員選出要綱に基づいて行われる協議調整の協議内容については、当事者の合意がない限り公開しません。

5. 部会役員選出についてのお問い合わせ窓口

〒177-0044 東京都練馬区上石神井 2-2-43 東京都立井草高等学校図書館 中村崇 電話 03-3920-0319(代)

6. やむを得ない事情ある場合の変更等

災害その他やむを得ない事情により、この公示の内容を変更する場合は、部会ホームページにその内容を掲載いたします。応募にあたっては、部会ホームページもご確認下さい。部会ホームページは、(公社)日本図書館協会のホームページ内にございます。(変更ない場合は、特に記事掲載はいたしません)

以上

部会員の皆様へ（部会役員選出についての今後の予定のご案内）

学校図書館部会幹事会

今年度で部会役員の任期（2 年間）が終了いたします。部会員の皆様には、この間部会運営にご協力いただき、ありがとうございました。

これにともない、前ページでの「お知らせ（公示）」のとおり、次期部会役員を公募いたします。部会員の皆様のご参加・ご協力をお願いいたしますとともに、今後の予定をご案内申し上げます。

○2025 年 1 月 20 日応募締切（必着）です。

○各役職ごとに、応募者が定数と同数以下の場合は、ご応募頂いた方については次期役員に確定となります。

応募者が定数を超えた場合は、応募締切後に部会長（またはその代理人）から、各候補者に、応募の状況をお知らせし、協議調整の呼びかけ・斡旋を行います。

○協議調整が成立しなかった場合、2 月中旬頃、各候補者に、選挙広報の原稿作成をお願いいたします（締切までの期間が短い可能性があります。応募者が定数を超えている旨連絡を受けたら、A4 判 1 枚以内の原稿をあらかじめご検討ご準備下さい）。

○3 月中旬から下旬頃、部会報を発行し、部会員の皆様に以下のお知らせをいたします。

- ・応募の状況・その後の経過・結果等
- ・応募者が定数を超え協議調整が成立しなかった役職についての選挙のご案内（選挙公報、投票用紙等も同封してお届けします）
- ・不足する役職・人数について補充選出の公募（補充選出はしない場合もあります）

○もし選挙となった場合、4 月下旬頃予定の投票締切日までに投票（郵送）をお願いいたします。この場合、5 月上旬頃までに開票会を行い、当選者を確定いたします。開票会は公開で行います。詳しくは、3 月中旬から下旬頃発行予定の部会報でお知らせいたします。

○次期役員選出に関する手続は、「学校図書館部会役員選出要綱」に従って進めて参ります。

（要綱は、学校図書館部会ホームページに掲載しております）

以上

《短信》

幹事会

「本と読者の未来を考える書店・図書館等による連携推進協議会」発足、第 1 回

全体会開催される

図書館雑誌 2024 年 10 月号に掲載された常任理事会（8/22 開催）議事録によれば、昨年度開催した「書店・図書館等関係者における対話の場」を受けて、この協議会の第 1 回全体会を 8 月 7 日にオンラインで開催したとのことである。協議会のメンバーは、日本書店商業組合連合会、日本書籍出版協会、作家など。日本図書館協会からも植松理事長と植村常務理事が参加。有識者として嶋田学氏（京都橘大学）、オブザーバーとして文部科学省総合教育政策局地域学習推進課高木課長らも参加している。座長は嶋田氏。事務局は日本図書館協会と出版文化産業振興財団。今後の取り組みとして、「実践事例の普及」「実践に必要な予算の確保（図書館資料費の確保を含む）」「書店と図書館の連携システム（書店の在庫検索システム）」「書店と図書館との連携・共同イベントの開催」「図書館本大賞（仮称）の創設」をあげている。この協議会の名称についても、種々意見がありなお検討中とのことである。

《短信》

幹事会

部会・委員会の在り方検討準備 WG（仮称）の設置について

10月24日常任理事会において、部会・委員会の在り方検討準備WG（仮称）の設置が提案された。設置期間は2025年3月31日までとのこと。諮問内容は、（1）部会・委員会設置の目的及び役割、（2）会員の部会・委員会への参加、（3）部会・委員会における次世代人材の育成、（4）その他、部会・委員会のあり方について検討が必要なこと、の4点。

委員の数は7名で、理事長が指名する。学校図書館部会員への打診が行われているようである。

《短信》

幹事会

「公務非正規女性全国ネットワーク（はむねっと）2024年調査」（2024.8）

はむねっとが、2024年6月1日から7月14日に実施した調査の小冊子（A4版 20p）が、部会あてに届いています。入手を希望される方は、部会アドレス（gakutobukai@jla.or.jp）に、送付先を明記の上、ご連絡ください。

この調査の対象者は、非正規で国の機関や自治体で働いている（働いていた）方です。調査の特徴として、「学校司書と図書館職員からの回答が多い（3割超）」とのこと。回答数676のうち学校司書の回答は121（18%）と最も多くなっています。

部会からのお知らせ

◎12ページのとおり、次期部会役員を公募いたします。皆様のご協力をお願いいたします。

◎今後の次号部会報発行予定《情報・原稿募集・各地の情報・実践記録・研究会集会等イベント開催情報 等々お知らせ下さい》

次号78号は2025年3月頃、79号は2025年7月頃発行の予定です。皆様からの情報や原稿も募集しております。図書館関係の研究会・集会等の開催情報は、日時やテーマ等要点をまとめて掲載します。〆切は発行予定時期の約1ヶ月前が目安になります。詳しくは部会までお問い合わせ下さい。

◎学図部会メーリングリストへのご参加のお誘い

部会員相互の連絡や、皆様からの意見を部会運営に生かすために、メーリングリストを開設しています。参加ご希望の方は、部会メールアドレス gakutobukai@jla.or.jp 宛にご連絡下さい。参加にあたっては、（1）氏名（本名）（2）日本図書館協会の会員番号（図書館雑誌の宛名ラベルに記載されています）（3）所属（ない方は不要）（4）メールアドレス をお知らせ下さい。※メーリングリストへの参加は部会員に限らせていただいております。協会を退会された方や部会を移動された方など、部会員でなくなった場合には、ご連絡下さい。部会員でないことが確認された場合、配信を終了させていただきます。

◎異動・変更等について

人事異動、転居、改姓等された方は協会事務局へご一報下さい。ただし、メーリングリストに登録したメールアドレスの変更は、部会アドレス宛にお知らせ下さい。メーリングリスト参加者が協会を退会や所属部会を変更された場合、協会事務局に加えて、部会にもお知らせ下さい。

◎幹事会はどなたでもご参加いただけます／皆様からのご意見・ご提案をお待ちしています

学校図書館部会は役員が幹事会を開いて様々なことを話し合い、運営しています。幹事会には、部会員であればどなたでもご参加頂けます。開催日時・場所等は部会連絡先にお問い合わせ下さい。また、遠方の会員の方など会議への直接の参加が難しい方はweb参加も可能です。ご意見・ご要望などをお寄せ下さい。役員一同、部会員の意見を反映した部会運営に努めたいと思っています。よろしくお願いいたします。

学校図書館部会作成資料のご案内

出版物

○学校図書館とマンガ JLA Booklet no. 11 (高橋恵美子・笠川昭治 日本図書館協会 2022. 10)

9月増刷出来!! 今が入手のチャンスです。ぜひお求めください。

学校図書館部会作成資料

○学校図書館における特別なサービスと資料の提供に関する基本方針—図書館利用に困難のある児童生徒のために— (2022年5月 一部修正)

入手先: <https://www.jla.or.jp/divisions/school/tabid/199/Default.aspx>

○学校図書館施設設備基準 第2版 (2022年6月)

発行者連絡先 gakutobukai@jla.or.jp

入手先: <https://www.jla.or.jp/divisions/school/tabid/199/Default.aspx>

○夏季研究集会報告集

・第47回夏季研究集会熊本大会報告集 2018 学校図書館の機能を活かす—そのための条件を考える—

☆講演 野口武悟氏 (専修大学人文学部教授)

☆報告 熊本地震による学校図書館被災報告ほか

・第48回夏季研究集会東京大会報告集 2019 学校図書館から考える情報の信頼性—インターネット・新聞・ニュース……時事的な情報とどう向き合うか—

☆講演 楊井人文氏 (FIJ 事務局長)

☆報告 時事問題スピーチその後ほか

・第49回夏季研究集会東京大会報告集 2021 学校図書館をめぐる諸問題

☆講演 児美川孝一郎氏 (法政大学キャリアデザイン学部教授)

☆報告 白山市学校図書館支援センター報告ほか

・第50回夏季研究集会東京大会報告集 2022 学校図書館の可能性を探る

☆講演 松田ユリ子氏 ほか神奈川県立高校司書

☆報告 新潟市学校図書館支援センター報告ほか

・第51回夏季研究集会東京大会報告集 2023 学校図書館の役割を問い直す

☆講演 本田由紀氏 (東京大学大学院教育学研究科教授)

☆報告 埼玉県立飯能高校すみっコ図書館報告ほか

※ 1000円 (送料とも) で販売しています。

※ 申込先 gakutobukai@jla.or.jp 13

◎第52回 (2024) 夏季研究集会報告集は、ただいま鋭意制作中です。通販については次号部会報でご案内いたします。

お待たせしました！

9月上旬増刷！

JLA ブックレット no.11
学校図書館とマンガ

高橋恵美子・笠川昭治著
日本図書館協会
定価 1,000 円（税別）

書店でも注文可

学校図書館にもぜひ 1 冊！ 岡山市の「マンガ選択基準」所収



目次

- 1 学校図書館になぜマンガが必要か（理論編）
 - 2 マンガをめぐる状況
コラム 1 世界の著名な美術館でマンガが展示される
 - 3 学校図書館のマンガ導入
 - 4 アメリカの学校図書館と日本のマンガ
コラム 2 「雑誌扱いマンガ」と「書籍扱いマンガ」
 - 5 アメリカにおける日本のグラフィックノベルをめぐる状況
 - 6 学校図書館に段階的にマンガを入れる
- 補遺 学校司書配置の現状と課題

6 章とコラム 1、2 は笠川氏が執筆

公共図書館でも役に立つ！ アメリカの公共図書館にも日本のマンガ…

・各種のマンガリスト

これも学習マンガだ！～世界発見プロジェクト～全 250 作品リスト

社会への関心を広げてくれるマンガ、授業等で活用できるマンガ（本文 33～36p）

ノンフィクションとしてのエッセイマンガ（本文 36～39p）

発行：公益社団法人 日本図書館協会 〒104-0033 東京都中央区新川 1-11-14 出版部販売係
hanbai@jla.or.jp

Tel 03-3523-0812 Fax 03-3523-0842

（お問い合わせ・ご注文はメールでもお受けします）